

～AL 自己評価レーダーチャート作成ソフトの使い方～

1 「AL 自己評価レーダーチャート作成ソフト」(ALhyouka～.xlsx) のアイコンをダブル・クリックして、作成ソフトを立ち上げてください。

2 ソフトが立ち上がったら、「第1回入力」と書かれたタブ（ウィンドウの最下段にある横並びのボタンの中の左端）を押してください。そうすると、AL 自己評価シートの個別データ（結果）を入力する表が出てきます。ここに、年、組、アンケート実施月、そしてシートの項目ごとに児童一人一人がつけた点数を入力していきます。

出席番号の下の「名前」の欄は、入れても入れなくてもレーダーチャートの描画には関係しません。必要に応じてお使いください。ただし、個人帳票を出力・印刷する場合には、児童生徒の名前を入れておく方が便利かもしれません。

3 データが入力されると、その都度、レーダーチャートが描画されていきます。その回の AL 自己評価レーダーチャート（クラスの平均値と100点満点で換算したクラスの得点）は、「第〇回グラフ」と書いてあるタブを押すと出てきます。この AL 自己評価レーダーチャートを、子どものワークシートに縮小して入れ込んだり、拡大印刷して板書に貼ってビッグ・カルタにしたり、または、子どものはがき新聞や壁新聞に貼りつける資料や、学校通信、学級通信の資料にしたりしてお使いください。

なお、4点満点の平均点と100点満点（難しく言えば肯定率といいます）の換算方法ですが、平均点が1点ですと100点満点で0点となり、2点で33点、3点で67点、そして4点で100点となります。つまり、100点満点を等間隔に3分割（1点から4点の間は、間隔は3つであるから）するためです。逆にいえば、平均点2.5点で、100点満点で50点となります。

4 このレーダーチャート作成ソフトでは、4回実施分までの AL 自己評価シートのデータ入力に対応しています。それ以上の回数を1年間に実施された場合には、新たにソフトを立ち上げて別名で保存し、第1回からお使いいただき、レーダーチャートの上の数字をお書き換えください。

5 各回のAL自己評価レーダーチャートは、その前後のレーダーチャートと重ね合わせて表示されるようになっていました。このことによって、AL自己評価レーダーチャートの変化が児童にとらえやすくなります。

6 次に、このソフトでは、児童一人一人に提供できる、個人帳票が簡単に作成できます。タブの「個人用（第〇回）」を押すと、それぞれの回のアンケートの結果に基づいた個人帳票が出てきます。一人一人の児童生徒の帳票は、右上の「アクティブ・ラーニングアンケートの結果」という表の中で、「氏名」の左にある「番」のところに、出席番号を入れると出てきます。まとめて学級内のすべての児童の分の個人帳票が作成されるわけではなく、出席番号を入力するたびに、該当する児童生徒の分だけの個人帳票が作成されることをご理解くださいようお願い申し上げます。

この個人帳票には、右上に、個人ごとの各回のアンケート結果、左下にはクラスの領域別の平均点、そして右下に個人毎の領域別の得点が配置されています。A3サイズ of 用紙に印刷すればきれいに出力されるようになっていました。

7 可能であれば、AL自己評価レーダーチャートやAL自己評価アンケートの結果一覧表は、カラー印刷して児童に配布すると、データの読み取りがしやすくなり効果的です。なお、エクセルのバージョンなどにより、印刷時に文字が若干ずれるなどのエラーが出る場合があります。そのような時には、ずれた文字の大きさやフォントを手動で調節してくださいませよう、お願い申し上げます。完全にすべてのソフトのバージョンに対応しておりませんことを、お詫び申し上げます。エクセルのバージョン2007以上でお使いくだされば幸いです。

8 なお、一人一人の児童のアクティブ・ラーニングの状況は、アンケートやレーダーチャート作成ソフトの使用とそれらの結果の返却だけでは、十分に改善されません。大切なことは、アンケート結果に基づいて、児童に改善案を考えさせたり、改善の進捗を可視化したり、班や学級で改善の取り組みを共有化して励まし合ったりすることが可能になるよう、ワークシートの工夫やアクティブ・ラーニング記録ノートの活用、特別活動や総合的な学習の時間を用いたアクティブ・ラーニング改善プロジェクトの授業化などの多様な取り組みを行うことなのです。

※ 今後、自己評価シートやレーダーチャート作成ソフト、そしてこの「使い方」マニュアルを改訂します。また、上記8のような実践の多様なアイデアを収集し広くご提供する方法を検討して参ります。皆様方のご理解とご協力をお

願ひ申し上げます。

本システムの活用により、アクティブ・ラーニング向上プロジェクトの実践が深まりますよう、お祈り申し上げます。

早稲田大学教職大学院
教授 田中博之